

信州大学整形外科専門医 研修プログラム



目次

1. 信州大学整形外科専門研修プログラムについて
2. 信州大学整形外科専門研修の特徴
3. 信州大学整形外科専門研修プログラムの目標
4. 専門研修の方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - ・ 専門知識の習得計画
 - ・ 専門技能の習得計画
 - ・ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）
 - ・ プログラム全体と連携施設におけるカンファレンス
 - ・ リサーチマインドの養成計画
 - ・ 学術活動における研修計画
 - ・ コアコンピテンシーの研修計画
 - ・ 地域医療に関する研修計画
 - ・ サブスペシャルティ領域との連続性について
 - 4.3 研修およびプログラムの評価計画
 - ・ 専攻医の評価時期と方法
 - ・ 専門研修プログラム管理委員会の運用計画
 - ・ プログラムとしての FD (Faculty Development) の計画
 - ・ 専門研修プログラムの改善方法
 - 4.4 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.6 修了要件
5. 研修スケジュール・専門研修施設・研修ローテーション・各施設指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

信州大学 整形外科専門研修プログラム

1. 信州大学整形外科専門研修プログラムについて

整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供し、運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。そのためにはあらゆる運動器に関する豊富な科学的知識と技術の修得に日々邁進し、高い社会的倫理観を備えることが求められます。われわれは運動器疾患全般に関して、早期診断、保存および手術療法ならびにリハビリテーション療法などを実行できる能力と、安全で心のこもった医療を提供しなければなりません。

整形外科・専門医制度は、初期臨床研修課程修了後、整形外科の専門的知識および技術を、上肢の外科（手外科、肩関節外科）、下肢の外科（股関節外科、膝関節外科、足の外科）、脊椎・脊髄外科、骨・軟部腫瘍外科、小児整形外科、リウマチ外科、スポーツ整形外科、外傷を含む一般整形外科など、各専門分野において取得することを目標としております。当研修プログラムでは信州大学医学部整形外科での研修に加え、様々な教育関連病院およびその専門施設において高度で特色のある研修が可能です。

2. 信州大学整形外科専門研修の特徴

信州大学整形外科研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）を身につけることができます。

具体的には以下の点の習得を目指します。

- 1) 運動疾患に関する知識を系統的に理解し、新しい知見を積極的に吸収し続ける姿勢を身につけること
- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼される能力を身につけること（プロフェッショナルリズム）。
- 3) 診療記録の適確な記載ができること。
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床現場での疑問を基礎医学・臨床医学を通して解決する手法を修得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと

3. 信州大学整形外科専門研修プログラムの目標

自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師を目指して信州大学整形外科専門研修プログラムは到達目標を「自立したプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。

整形外科学は、運動器の機能と形態の維持・再建をめざす臨床医学であり、脊椎、上肢、下肢などの広範な診療領域を扱います。高齢社会をむかえたわが国においては、整形外科への期待はますます大きくなっています。現在、信州大学整形外科には、脊椎（頸椎～腰椎、側弯症）、上肢（肩～手指）、下肢（股関節～足指）、腫瘍（骨軟部腫瘍、転移性腫瘍）の4つの大きなグループに分かれて診療・研究を行っています。また、サブカテゴリーとしてスポーツ医学、足の外科、リウマチ、骨粗鬆症などの診療も行っております。また、附属病院に救急部が併設されているため、整形領域の重度の外傷治療を経験する事が可能です。また、長野県内各地域の主要な総合病院が連携施設になっており、スポーツ医学、手外科（マイクロサージェリー）、脊椎外科、関節外科、小児外科、肩関節外科、外傷、救急医療、リハビリテーションなど整形外科のあらゆる分野に特色をもった26におよぶ施設、病院により構成されているため、機能的なローテーションによりプライマリケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。

信州大学整形外科は、創設から61年が経過し、整形外科全領域にわたる研究・教育・診療体制が整備されています。また信州大学は様々な理工系の学部を有する総合大学で他学部や複数の研究所を有しており、それらの施設と連携して様々な分野での基礎・臨床研究を進めています。

4. 研修方法

参照資料

整形外科専門研修プログラム整備基準及び付属資料（日本整形外科学会 HP）

<http://www.joa.or.jp/jp/edu/index.html>

4.1 基本方針：

整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、信州大学附属病院（基幹施設）および連携施設群において研修を行います。専門知識習得の年時毎の到達目標と専門技能修得の年時毎の到達目標は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料2「専門技能習得の年次毎の到達目標」を参照して下さい。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。

指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価し記入します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的かつ建設的なフィードバックを行います。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の2月に研修プログラム管理委員会において、

専門研修修了判定を行います。判定基準は【4.6 修了要件】に定めるとおりです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第 3 者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医ならびに専攻医は真摯に対応いたします。

4.2 研修計画

整形外科の研修で経験すべき疾患・病態は、骨、軟骨、筋、靭帯、神経などの運動器官を構成するすべての組織の疾病・外傷・加齢変性です。また新生児、小児、学童から成人、高齢者まで全ての年齢層が対象となり、その内容は多様です。この多様な疾患に対する専門技能を研修するために、整形外科専門研修は1か月の研修を1単位とする単位制をとり、全カリキュラムを脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携病院をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を修得し、4年間で45単位を修得するプロセスで研修します。

① 専門知識の習得計画

本研修プログラムでは、専門知識を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し、知識能習得状況を6か月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、知識習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医は1年目4月下旬の大学主催のクルズス（キックオフセミナー）に参加し、整形外科診療を行うための基本事項を学習します。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って研修し技能能習得状況を6か月毎に評価します（自己評価および指導医評価）。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医は1年目6月上旬の大学主催のクルズス（ゴッドハンドセミナー）に参加し、整形外科の手術手技研修を行うための基本事項を学習します。

③ 経験目標（経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等）

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に明示された症例数以上を信州大学付属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

④ プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討会はすべての施設で行います。前述した専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

⑤リサーチマインドの養成計画

大学在籍中はすべての専攻医が当医局で週1回研究した成果を発表するカンファレンス「リサーチミーティング」に出席し整形外科各領域の臨床研究・基礎研究の研究成果に関するディスカッションに参加します。また、夏・冬の年に2回連携施設で行われる「信州整形外科懇談会」で発表を行います。研究・発表の指導は各施設の指導医が行います。また、年に数回行われる医局主催の講演会・セミナーに積極的に出席します。

⑥学術活動に関する具体的目標とその指導体制（専攻医1人あたりの学会発表、論文等）

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

⑦コアコンピテンシーの研修計画（医療倫理、医療安全、院内感染対策等）

整形外科専門医としての臨床能力（コンピテンシー）には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力（コアコンピテンシー）が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力（コアコンピテンシー）を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。信州大学附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑧地域医療に関する研修計画

本プログラムの研修施設群は長野県医師不足の地域中小病院および中核病院を含みます。すべての専攻医はこれらの病院に3か月以上勤務します。

⑨サブスペシャリティ領域との連続性について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本リウマチ医学会専門医、日本手外科学会専門医があります。本プログラムの信州大学附属病院および連携施設にはこれらサブスペシャリティ領域の研修施設が複数施設含まれています。整形外科専門研修期間からこれらのサブスペシャリティ領域の研修を行うことができ、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援します。

4.3 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6か月に1回行い、(8月および2月) 専門研修プログラム管理委員会に提出します。

他職種も含めた信州大学附属病院および各研修施設での研修評価(態度も含めた総評)を各施設での研修終了時に行います。専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は専門研修プログラム統括責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

年1回の定期委員会(2月)を開催します。4年次の2月に専攻医修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」に従って専攻医を指導します。

指導医は、日本整形外科学会が行う指導医講習会等を受講してフィードバック法を学習し、より良い専門医研修プログラムの作成に努めています。指導医講習会には、フィードバック法を学習するために「指導医のあり方、研修プログラムの立案(研修目標、研修方略及び研修評価の実施計画の作成)、専攻医、指導医及び研修プログラムの評価」などが組み込まれています。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.4 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導します。

4.5 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6ヶ月以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書の、妊娠・出産の場合はそれを証明するものの添付が

必要です。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間に組み入れることはできません。また研修の休止期間が 6 ヶ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年間遅れる場合もあります。専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.6 修了要件

研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。

修了認定基準は、

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること。
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること
- ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続により 30 単位を修得していること。
- ⑤1 回以上の学会発表、また筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上①～⑤の修了認定基準をもとに、専攻研修 4 年目の 12 月に専門研修プログラム管理委員会において修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

信州大学附属病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。長野県の中核病院として、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、専門分野ごとの症例検討や抄読会などより専門的な知識・技能を指導します。

【信州大学週間及び月間予定表】

診療班（週間スケジュール）

①脊椎班（責任者：高橋 淳）

月	火	水	木	金
7:30～ 術前カンファ (病棟3階)		7:308:00～ 抄読会 (医局) 8:00～脊椎班 病棟回診(東3 階病棟)	8:30～終日	8:30～ 病棟回診 (東3階病棟)
9:00～ 側弯症外来 (外来)	病棟処置等	9:00～ 脊椎専門外来 (外来)	手術 (手術室)	
15:00～ 術後カンファ (病棟3階)		14:00～ 脊髓造影検査 (透視室)		14:00～ 脊髓造影検査 (透視室)
16:00頃～ 総回診 (東3階病棟)		16:00頃～ 病棟回診 (東3階病棟)		
17:00頃～ 病棟カンファ (東3階病棟)		16:30頃～ ミーティング (病棟3階)		
18:00～ 医局会 (医局)				

②下肢班（責任者：天正恵治）

月	火	水	木	金
7:30～ 術前カンファ (病棟3階)		午前 手術 (手術室)	8:00～ 病棟カンファ (東3階病棟)	7:30～ 抄読会 (医局) ミーティング (東3階病棟)
病棟処置など	病棟処置等	病棟処置等	8:30～終日	9:00～ 下肢専門外来 (外来)
15:00～ 術後カンファ (病棟3階)			手術 (手術室)	
16:00頃～ 総回診 (東3階病棟)				
18:00～ 医局会 (医局)				

③上肢班（責任者：加藤博之）

月	火	水	木	金
7:30～ 術前カンファ (病棟3階)	7:10～ 抄読会 (医局)	7:30～ 病棟回診 (東3階病棟)	8:30～ 上肢専門外来 (外来)	病棟処置など
9:00～ 上肢専門外来 (外来) 午後 関節造影 (透視室)	8:30～ 手術 (手術室)	9:00～ 肩専門外来 (外来)		
15:00～ 術後カンファ (病棟3階)		手術終了後～ ミーティング (外来)	病棟処置など	病棟処置など
16:00頃～ 総回診 (東3階病棟)	18:00～ 病棟カンファ (東3階病棟)			
18:00～ 医局会 (医局)				

④腫瘍班（責任者：鬼頭宗久）

月	火	水	木	金
7:30～ 術前カンファ (病棟3階)	7:45～ 病棟カンファ (東3階病棟)	8:30～ 病棟回診 病棟処置など	8:30～ 病棟回診 (東3階病棟)	7:30～ 抄読会 (医局)
9:00～ 腫瘍専門外来 (外来)	8:15以降～ 手術 (手術室)	病棟処置など 新生児検診 14:30～		病棟処置など 午後 腫瘍専門外来
15:00～ 術後カンファ (病棟3階)			午後 腫瘍専門外来 病棟処置など	
16:00頃～ 総回診 (東3階病棟)	手術終了後 病棟回診		18:00～ ミーティング (外来)	18:00～ 病棟回診
18:00～ 医局会 (医局)				

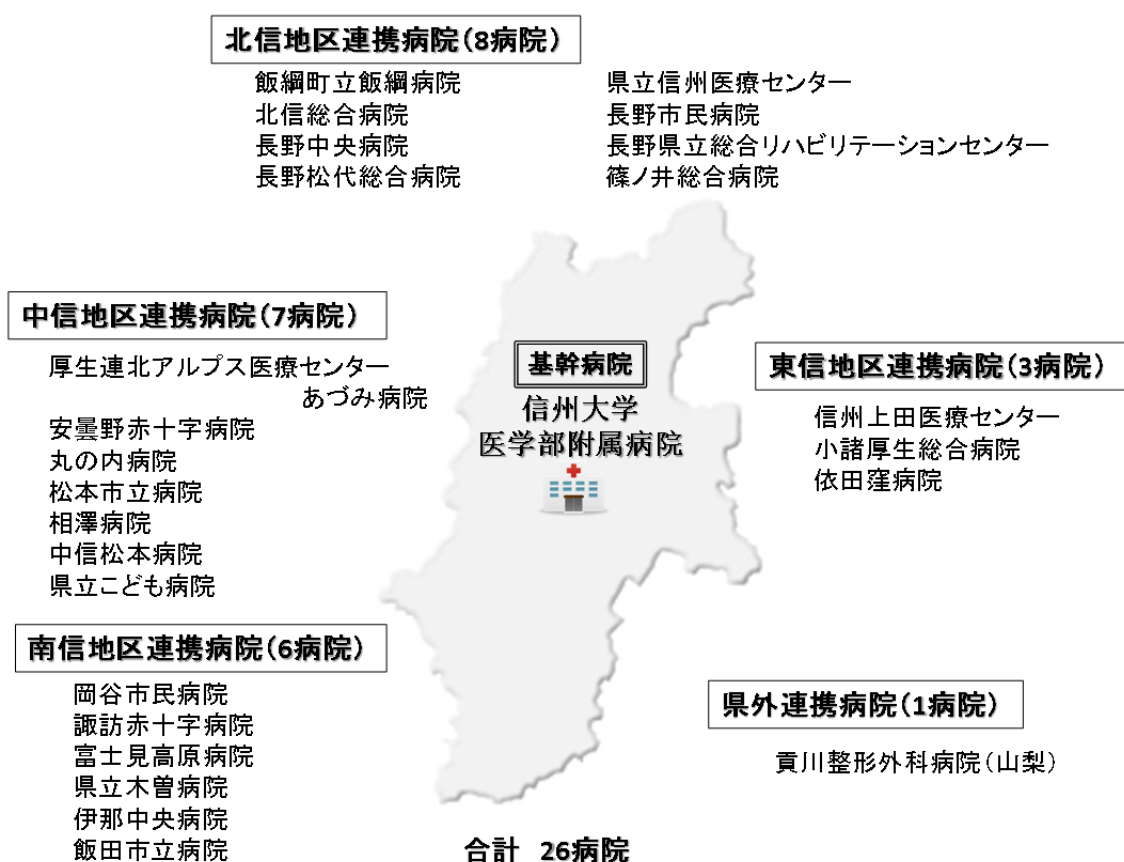
- ・ 術前/術後カンファにて専攻医は症例に関するプレゼンテーションを行う
- ・ 病棟カンファは入院中の症例について指導医および上級医、ナース、理学療法士を交えて行う連携会議である

信州大学医学部整形外科専門医研修プログラム年間スケジュール

4月上旬	信州大学整形外科新専攻医歓迎会
4月29日	キックオフセミナー（信州整形外科新専攻医研修会）
6月第1 or 2 土曜日	ゴッドハンドセミナー （専攻医研修会、新専攻医手術手技研修会）
6月第3 金曜日	信州オルソペディックセミナー（SOS）
6月中旬	医局旅行
8月第3 土曜日	信州整形外科懇談会（連携病院開催）
11月第2 金曜日	信州整形外科・放射線科勉強会
12月第2 土曜日	信州大学整形外科同門会総会・忘年会
1月末	グリーンスティックセミナー
2月初旬～ 3月上旬	北アルプス整形外科勉強会（＋スキー合宿）
2月第3 土曜日	信州整形外科懇談会（信州大学開催）・研修会議
3月第1 土曜日	信州脊椎脊髄疾患研究会
3月第2 土曜日	信州上肢の外科研究会
3月第2 土曜日	信州関節外科セミナー

連携施設

本プログラムの連携施設は 25 施設(町立飯綱病院、長野県立信州医療センター、北信総合病院、長野市民病院、長野県総合リハビリテーションセンター、長野中央病院、厚生連長野松代総合病院、南長野医療センター篠ノ井総合病院、北アルプス医療センターあづみ病院、安曇野赤十字病院、長野県立こども病院、相澤病院、丸の内病院、国立病院機構中信松本病院、松本市立病院、信州上田医療センター、厚生連小諸総合病院、依田窪病院、岡谷市民病院、諏訪赤十字病院、厚生連富士見高原病院、県立木曽病院伊那中央病院、飯田市立病院、貢川整形外科病院)です。



それぞれの施設の研修可能分野とローテーション表、指導医と指導分野を下表に示します。整形外科診療の現場における研修方法の要点については、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 13「整形外科専攻医研修マニュアル」を参照して下さい。

連携施設研修担当分野一覧表

名称	施設としての研修担当分野	研修管理責任者
信州大学医学部整形外科	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9	加藤博之
飯田市立病院	1,4,5	伊東 秀博
伊那中央病院	1,3,4,9	小池 毅
長野県立木曾病院	3,4,10	中曽根 潤
飯綱町立飯綱病院	2,3,4,5,9,10	伊藤 一人
安曇野赤十字病院整形外科	1,2,4,6,9	泉水 邦洋
丸の内病院	2,3,4,5,6,7,8,9,10	縄田 昌司
小諸厚生総合病院	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10	北側 恵史
信州上田医療センター	7,8,10	赤羽 努
長野県立信州医療センター	3,4,6	三井 勝博
長野中央病院	2,3,4,5,9,10	杉原 大輔
まつもと医療センター中信松本病院	2,3,4,5,6,7,8,9,10	若林 真司
富士見高原病院	3,4,9,10	安田 岳
北アルプス医療センターあづみ病院	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10	畑 幸彦
長野県立総合リハビリテーションセンター	1,2,3,6,7,9	清野良文
南長野医療センター 篠ノ井総合病院	1,2,3,4,5,6,7,9,10	丸山 正昭
松本市立病院整形外科	1,2,3,4,9,10	保坂正人
諏訪赤十字病院	1,2,3,4,5,6,7,9,10	小林 千益
相澤病院	1,2,3,4,6,9,10	山崎 宏
長野松代総合病院	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10	堀内 博志
国民健康保険 依田窪病院	1,2,3,4,5,6,9,10	堤本 高宏
岡谷市民病院	1,2,4,5,6,7,9,10	内山茂晴
長野市民病院	1,2,3,4,5,6,7,8,9	松田 智
貢川整形外科病院	1,3,9	池上 仁志
長野県立こども病院	3,7,9,10	松原光宏
北信総合病院	2,3,4,6,9,10	村上 博則

1.脊椎 2. 上肢・手 3. 下肢 4. 外傷 5. リウマチ 6. スポーツ 7. 小児 8. 腫瘍 9. リハ 10. 地域医療

研修病院ローテーション案

	1年目	2年目	3年目	4年目
Pro1	大学	飯田	伊那	貢川
Pro2	大学	伊那	安曇野	木曾
Pro3	大学	安曇野	中信	飯綱
Pro4	大学	中信	あづみ	小諸
Pro5	大学	あづみ	篠ノ井	上田
Pro6	大学	県リハ	諏訪	信州
Pro7	大学	篠ノ井	相澤	富士見
Pro8	大学	諏訪	松代	松本
Pro9	大学	相澤	飯田	依田窪
Pro10	大学	松代	長野市民	岡谷

研修指導医一覧

	氏名	所属	役職	脊椎	上肢/手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療
1	加藤 博之	信州大学医学部附属病院	教授		●			●		●			
2	吉村 康夫	信州大学医学部附属病院	准教授					●			●	●	
3	高橋 淳	信州大学医学部附属病院	准教授	●				●		●			
4	林 正徳	信州大学医学部附属病院	助教		●		●			●			
5	天正 恵治	信州大学医学部附属病院	講師			●			●			●	
6	中村 幸男	信州大学医学部附属病院	講師			●		●		●			
7	倉石 修吾	信州大学医学部附属病院	助教	●			●		●				
8	青木 薫	信州大学医学部附属病院	准教授							●	●	●	
9	池上 章太	信州大学医学部附属病院	助教	●			●					●	
10	岡本 正則	信州大学医学部附属病院	診療助教				●			●	●		
11	二木 俊匡	信州大学医学部附属病院	診療助教	●			●				●		
12	鬼頭宗久	信州大学医学部附属病院	診療助教				●		●				
13	赤羽努	信州上田医療センター	医長							●	●		●
14	前角 正人	長野中央病院	整形外科部長			●	●						●
15	下田 信	長野中央病院	リウマチ科部長		●		●	●					
16	後田 圭	長野中央病院	整形外科医長		●		●					●	
17	伊東 秀博	飯田市立病院	部長	●			●	●					
18	小池 毅	伊那中央病院	部長			●	●						
19	樋代 洋平	伊那中央病院	部長	●			●						
20	比佐 健二	伊那中央病院	主任医長			●	●					●	
21	荻原 伸英	伊那中央病院	主任医長	●			●						
22	原 一生	伊那中央病院	医長			●	●						
23	三井 勝博	長野県立信州医療センター	部長			●	●		●				
24	北側 恵史	小諸厚生総合病院	診療部長		●					●			●
25	宮 正彦	小諸厚生総合病院	部長				●	●				●	
26	下地 昭昌	小諸厚生総合病院	部長	●							●	●	
27	佐藤 新司	小諸厚生総合病院	医長			●	●		●				
28	瀬在 純也	小諸厚生総合病院	医長			●	●		●				
29	小林千益	諏訪赤十字病院	副院長			●		●				●	
30	中川浩之	諏訪赤十字病院	整形外科部長	●					●				●
31	青木 哲宏	諏訪赤十字病院	整形外科部長		●		●		●			●	
32	三澤 弘道	国民健康保険 依田窪病院	院長	●				●	●				
33	堤本 高宏	国民健康保険 依田窪病院	診療部長	●								●	●
34	太田 浩史	国民健康保険 依田窪病院	整形外科長			●			●				●
35	由井 睦樹	国民健康保険 依田窪病院	整形外科長	●								●	●
36	古作 英実	国民健康保険 依田窪病院	整形外科長		●		●	●					
37	伊藤 一人	飯綱町立飯綱病院	院長			●		●					●
38	松永 智美	飯綱町立飯綱病院	整形外科医長		●		●					●	
39	池上 仁志	貢川整形外科病院	病院長	●		●						●	
40	瀧澤 勉	長野松代総合病院	院長		●		●			●			
41	秋月 章	長野松代総合病院	名誉院長			●		●	●				
42	山崎 郁哉	長野松代総合病院	整形外科部長	●				●			●		
43	堀内 博志	長野松代総合病院	整形外科部長			●						●	●
44	松永 大吾	長野松代総合病院	整形外科部長			●			●	●			
45	中村 順之	長野松代総合病院	整形外科部長			●		●					●
46	望月 正孝	長野松代総合病院	整形外科医長	●	●		●						
47	小藤田 能之	長野松代総合病院	整形外科医長	●	●		●						
48	山崎 宏	相澤病院	整形外科センター長		●		●						
49	北原 淳	相澤病院	慢性期疾患センター長	●									●
50	小平 博之	相澤病院	急性期疾患センター長			●	●						
51	伊坪 敏郎	相澤病院	スポーツ疾患センター長						●			●	
52	薄井 雄企	相澤病院	スポーツ疾患センター医長						●			●	
53	村上博則	北信総合病院	医長		●		●						●
54	山田誠司	北信総合病院	医長			●		●				●	
55	中曾根 潤	長野県立木曽病院	整形外科科長			●	●						●
56	安田 岳	富士見高原病院	整形外科部長			●	●						●
57	高橋 秀人	富士見高原病院	整形外科医師				●						●

	氏名	所属	役職	脊 椎	上 肢 / 手	下 肢	外 傷	リ ウ マ チ	ス ポ ー ツ	小 児 整 形	腫 瘍	リ ハ ビ リ	地 域 医 療
58	内山茂晴	岡谷市民病院	部長		●					●			●
59	鴨居史樹	岡谷市民病院	医長		●		●		●				
60	春日和夫	岡谷市民病院	嘱託	●				●				●	
61	泉水 邦洋	安曇野赤十字病院	部長	●	●		●						
62	澤海 明人	安曇野赤十字病院	部長	●					●			●	
63	若林真司	まつもと医療センター-中信松本病院	部長			●		●					●
64	小林博一	まつもと医療センター-中信松本病院	医長		●				●			●	
65	磯部研一	まつもと医療センター-中信松本病院	医長				●			●	●		
66	植村一貴	まつもと医療センター-中信松本病院	医師		●		●						●
67	畑 幸彦	北アルプス医療センター-あづみ病院	病院長		●				●			●	
68	石垣 範雄	北アルプス医療センター-あづみ病院	部長		●		●						
69	中村 恒一	北アルプス医療センター-あづみ病院	部長		●			●		●			
70	向山 啓二郎	北アルプス医療センター-あづみ病院	部長	●							●		●
71	狩野 修治	北アルプス医療センター-あづみ病院	医長			●	●						●
72	王子嘉人	北アルプス医療センター-あづみ病院	医長	●			●	●					
73	松田 智	長野市民病院	部長		●	●					●		
74	中村 功	長野市民病院	科長	●		●						●	
75	藤澤 多佳子	長野市民病院	科長					●	●	●			
76	清野 良文	県立総合リハビリテーションセンター	医務次長		●	●				●			
77	立岩 裕	県立総合リハビリテーションセンター	医務部長	●					●			●	
78	松原光宏	長野県立こども病院	部長			●				●			●
79	二見 徹	長野県立こども病院	股関節センター長			●				●			●
80	酒井典子	長野県立こども病院	医官			●				●			●
81	保坂正人	松本市立病院整形外科	整形外科科長		●		●						●
82	松江練造	松本市立病院整形外科	リハビリテーション科科長	●		●						●	
83	清水政幸	松本市立病院整形外科	整形外科科長	●		●	●						
84	丸山 正昭	南長野医療センター 篠ノ井総合病院	副院長・統括部長			●				●			●
85	外立 裕之	南長野医療センター 篠ノ井総合病院	部長	●				●				●	
86	笠間 憲太郎	南長野医療センター 篠ノ井総合病院	医長		●		●		●				
87	高梨 誠司	南長野医療センター 篠ノ井総合病院	医長				●					●	●
88	中土 幸男	丸の内病院	院長		●			●					●
89	縄田 昌司	丸の内病院	部長			●			●			●	
90	百瀬 敏充	丸の内病院	部長		●			●				●	
91	森岡 進	丸の内病院	科長			●	●			●			
92	松木 寛之	丸の内病院	科長		●		●					●	
93	百瀬能成	丸の内病院	科長			●			●		●		
94	前田隆	丸の内病院	科長			●	●	●					

6. 専門研修プログラムを支える体制

①専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である信州大学附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価ができる体制を整備します。専門研修プログラムの管理には日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることによって研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために信州大学附属病院に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に一回開催します。副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

②基幹施設の役割

基幹施設である信州大学附属病院は専門研修プログラムを管理し、プログラムに参加する専攻医および連携施設を統括します。

信州大学附属病院は研修環境を整備し、専攻医が整形外科の幅広い研修領域が研修でき、研修修了時に修得すべき領域の単位をすべて修得できるような専門研修施設群を形成し、専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医と連携してより良い研修が行えるようプログラムを随時改善します。

③専門研修指導医

指導医は専門研修認定施設に勤務し、整形外科専門医の資格を1回以上更新し、なおかつ日本整形外科学会が開催する指導医講習会を5年に1回以上受講している整形外科専門医であり、本研修プログラムの指導医は上記の基準を満たした専門医です。

④プログラム管理委員会の役割と権限

1) 整形外科研修プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成や研修プログラム相互間の調整、専攻医の管理及び専攻医の採用・中断・修了の際の評価等専門医研修の実施の統括管理を行います。

2) 整形外科研修プログラム管理委員会は研修の評価及び認定において、必要に応じて指導医から各専攻医の研修進捗状況について情報提供を受けることにより各専攻医の研修進捗状況を把握、評価し、修了基準に不足している部分についての研修が行えるよう、整形外科専門研修プログラム統括責任者や指導医に指導・助言する等、有効な研修が行われるよう配慮します。

3) 研修プログラム管理委員会は、専攻医が研修を継続することが困難であると認める場合には、当該専攻医がそれまでに受けた専門医研修に係る当該専攻医の評価を行い、管理者

に対し、当該専攻医の専門医研修を中断することを勧告することができます。

4) 研修プログラム管理委員会は、専攻医の研修期間の終了に際し、専門医研修に関する当該専攻医の評価を行い、管理者に対し当該専攻医の評価を報告します。

5) 整形外科専門研修プログラム管理委員会の責任者である専門研修プログラム統括責任者が、整形外科専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修終了判定を行います。

6) 信州大学付属病院は連携施設とともに研修施設群を形成します。信州大学付属病院に置かれたプログラム統括責任者は、総括的評価を行い、修了判定を行います。また、プログラムの改善を行います。

⑤プログラム統括責任者の役割と権限

プログラム統括責任者は、整形外科領域における十分な診療経験と教育指導能力を有し、以下の整形外科診療および整形外科研究に従事した期間、業績、研劣実績を満たした整形外科医とされており、本研修プログラム統括責任者はこの基準を満たしています。

1) 整形外科専門研修指導医の基準を満たす整形外科専門医

2) 医学博士号またはピアレビューを受けた英語による筆頭原著論文3編を有する者。

プログラム統括責任者の役割・権限は以下の通りとします。

1) 専門研修基幹施設である信州大学部附属病院における研修プログラム管理委員会の責任者であり、プログラムの作成、運営、管理を担う。

2) 専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負う。

⑥労働環境、労働安全、勤務条件

信州大学付属病院や各研修連携施設の病院規定によりますが、労働環境、労働安全、勤務条件等へ以下に示す配慮をします。

- ・研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ・研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ・過剰な時間外勤務を命じないようにします。
- ・施設の給与体系を明示します。

7. 募集人数と応募方法

【専攻医受入数】各年次10名合計40名

各施設の専攻医最大受入可能数は指導医数及び各施設の新患数及び手術数で定められている受入基準から決定し、その各施設の受入可能専攻医数を基に群全体の受入数を各年次10名、合計40名と設定しました。

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで下記に送って下さい。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記ページよりダウンロードして下さい。

信州大学整形外科専門研修および病院見学ガイダンス特設ページ

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-seikei/default.html>

必要書類

- ①申請書（ダウンロード）
- ②履歴書（ダウンロード）
- ③医師免許証（コピー）
- ④医師臨床研修修了登録証（コピー）
- ⑤健康診断書

【募集期間】2017年9月1日～10月末

【問い合わせ先】

〒000-8577 長野県松本市旭 3-1-1

信州大学医学部整形外科

担当：岡本正則（研修プログラム副統括責任者）

ryouyuma@shinshu-u.ac.jp

【病院見学の申し込みについて】

信州大学附属病院は随時、病院見学を受け付けております。

（宿泊も OK）

詳しくは

信州大学整形外科医局

seikei@shinshu-u.ac.jp